

ク帝國ノ前途誠ニ憂フベキモノガアツタノデアル。
大正十二年九月一日突如トシテ起ツタ関東大震災ハ、
一朝ニシテ京濱其ノ他ノ市邑ヲ焦土ト化シ家屋ノ倒潰
男女ノ慘死幾万、國富ノ衰、放幾十億ヲ知ラナイノ
デアル。前古無比ノ此ノ天災ニ會ヒテ茲ニ我帝國ノ真ノ
危機ハ到来シタ。今ニシテ起タズンバ失ハレタル國カノ振
興文化ノ紹復ヲ如何ニセンカ。斯クテ「覺メヨト喚發
セラレタルハカノ國民精神作興ノ詔書」デアル。奉讀ス
ル者何人カ恐懼セザラン。其一節ニ曰ク

「今ニ及ビテ時弊ヲ革メズンバ或ハ前緒ヲ失墜ス
センコトヲ恐レルト

昌平日久シクシテ人心漸ク浮華ニ流シ輕佻詭激ノ風亦生
ジ。這個ノ大震災ニ直面シテ尚覺醒スル所數ナク國

民ハ依然トシテ噴火山ノ舞蹈ニ酔ヒツ、アルノデアル。
誠ニ恐ルベシ。今ニシテ時弊ヲ革メズンバ我帝國ノ基
穴ヲ掘ル者ハ我國民自ラテアリ、決シテ他ノ諸國テハナイデ
アラウ。コレ悲シムベクモ今現實ノ問題デアル。
斯カル難局ニ處ニテ然ラハ我國民ノ採ルヘキ態度如
何思フニ輸入ノ超過モ思想ノ混亂モ憂フベキハ然
ルモ之葦ハ言ハハ現象デアル。流轉シテ止マザル現象
ノ根元、換言スレバ我等日本帝國ガ轉禍為福ノ積
極的發展ヲ為サンガ為メノ真ノ根元ハ何、一ツアルノミ
曰ク「詔書」ノ旨ヲ感激奉體スルコト。之ノミデアル。之則
チ剛健ナル國民精神ノ涵養デアルカラデアル。
嘗ツテ我國民ハ教育勅語ニ感情シテ日晝日露、
勝チ、以由ノ詔書ヲ畏ミテ戰後ノ經營ニ之ヲ努メ、何